

ルルドの丘

2017

3月

No.37



社会福祉法人 聖母の騎士会

恵の聖母の家 医療型障害児入所施設・療養介護

児童発達支援センターめぐみ

相談支援事業所こころ

訪問看護あんな



▼「みことば」では聖書等の御言葉をお伝えします。 ▼「きらりん」では皆様の活動をお知らせします。



希望するとは、
前進すること、
乗り越えること。

R.G. ニコル

いのちのきらめき より

♪きらりん☆

作 品 展

当施設では一人ひとりに合わせた色々な個別の活動を行っています。その中でステンシル風絵画の制作活動をしている利用者を紹介したいと思います。約9年程続けてきたステンシル風絵画の製作活動を振り返ると多くの作品ができていきました。始めは指絵（絵具を指に付け自由に描く）から行い、徐々に筆を使用し型紙に合わせて描くまでになりました。活動の時はいつもキラキラとした目で楽しそうに、そして一生懸命に取り組んできました。作品展に出展したり施設内に飾ったり、東日本大震災の時には絵手紙にして思いを託すこともありました。

今回、この頑張りをより多くの人に紹介できたらと思い、作品展を行うことを提案しました。初めての作品展なので今まで描いた作品をみてもらしながら「作品展をやってみませんか」とお聞きすると、ニコニコしながら「はい」と元気に返事をしてくれました。まずは、ご本人に作品展がどんなものか知つもらうために施設内で行う事にし、その広報活動（ご家族と案内状を配ったり、放送で知らせる）を頑張つてもらいました。施設内の作品展前日には一緒に絵を飾り、観に来た人たちが楽しんでくれることを願いながら、わくわくしながら一つひとつ飾っていきました。当日は職員をはじめ、面会者やボランティアの方々など多くの人にみてもらうことができました。ご本人に感想を聞くと「良かった」「できた」ということをサインで教えてくれました。人にみてもらう喜びを感じることで、今後の活動がより楽しみになったようでした。

約9年と続けてきた制作活動は、自分らしさを表現できる大切な活動の一つになっているのではないかと思います。今後は施設外（地域）での作品展に向けて頑張っていけるようにサポートしていきたいと思います。

保育士 荒木 優希



※表紙写真は児童発達支援センターめぐみのお雛さまです

卷頭言

施設長
佐藤
圭右

▼写真は1月4日の朝日です。

それが今では、落ち着きのない子、人の話を聞けない子、人とコミュニケーションをとるのが苦手な子、漢字をいくら練習しても読めない子、計算だけができない子など、いろいろと「個性」を持った児がいて、それぞれに理解しやすいような工夫した教育が行われるようになります。もちろん、声や音が聞こえにくいう子やうまく歩けない子など、身体

る間に行きのは、小学校は入学するまでにあと1年あるので、その間に本人の特性をしつかり見極め、小学校で支援を行う必要があるのかないのか、あるのならどのような支援が適当かを考え、さらに必要なら訓練を行うことができるかうです。

ところが、残念ながらまだその考えが周知されていない地域もあるようです。先ほどの大分市、別府市な

毎年、秋口から年始にかけてのシーズンに、多く頼まれるものに診断書があります。それは、学校や教育委員会に提出する診断書です。

今の学校教育では、児童・生徒の特性に合わせた教育カリキュラムを組むことが求められています。それらの一つが、通級教室や支援学級、または支援学校です。自分たちが子どもたちからあつた、「たんぽぽ学級」や「ひまわり学級」のようなものです。しかし、当時あつたものは、おそらく知的発達症（知的障害、精神薄弱と呼ばれていたものです）のための教室と、言語症（言葉の数が少ないなど）や語音症（力行をタ行で発音するなどの構音障害）、児期流暢症（吃音、どもり）などのことばの教室が主だったのではない

的な障害を持つ児も、合理的な配慮に基づいて、普通小学校の支援教室で授業を受けることができるようになっています。

どは対象児童の数が多すぎて対応できないのが一因のようです。一方、それ以外の地域では、「支援学級に行くなんか、面倒しいっちゃ」「学校に行けば何とかなるんや。そのうち覚ゆるわあ」という考え方を持つている人も少なくありません。

確かに同級生が多ければ、そういう児も何もなく紛れることもできるかもしません。しかし、自分と他人の違いを自覚できるような思春期になると、自分自身に自信を持つことができなくなり、居場所がなくなって、不登校になってしまふかもしません。そうならないためにも、本人の特性に合わせた教育が受けられるように配慮された小学校生活をスタートできればいいな、と願いつつ、診断書を書きました。

が多い市町村と見えてくるようになります。中には、「この児を支援学校に進ませたいから、知的障害があると診断書に書いてくれ」と依頼した教員もいました。もちろん嘘は書けず、断りました。また、初診で診断書だけ書いてくれという依頼もありますが、本人の特性を見極めた上で診断書と考えますので、私は一目見ただけでの印象で診断書を書くことは、原則していません。これらは個人の依頼ではなく、予算的な制限の中での、その教育委員会の切羽詰まった依頼だったかもしれません。

いろいろな個性を将来も踏まえて地域で育てようとするのか、場当たり的な対応で済ませるのか、それぞれの首長さんの教育に対する態度、思ひが反映されているのではないで

このような教育は、今は県立の支援学校や、国立、私立の学校を除き、各市町村の教育委員会にどのように実施するかが委ねられています。もちろん、支援学級などに配置される教職員の予算配分は県で行われますが、市町村が持ち出す分もあるようです。そのような中で、全般的に俯瞰すると、個性の強い子も自分たちの市町村でしつかり見守っていこうとする市町村と、支援学校への転学



▼各部署の声です。今年度の目標は「共生」相手を丸ごと尊重する”です。

「えつ、ディズニーランドじゃないの?」「楽しみにしていたのに…」「なんですか?」教室では、現実を受け入れたくない若者達が騒いでいた。長倉少年もその一人だ。新しく着任した校長先生の気まぐれで、高校の修学旅行の目的地が関東から関西へ変更されたのだ。(これは青春時代真ん中の私たちにとって「大事件」である。個人的に神社・仏閣など歴史的文化財の多い京都・奈良は嫌いではない。しかし、その修学旅行には、「お寺で一泊し座禅修行」という謎のプランが追加されていた。

私が通った高校は、よく普通の公立高校、仏教系の学校法人都ではない。あえて修学旅行で座禅修行をする必然性などないはずだ。私たちは、期待と不安、そして不満を募らせながら、十二月の修学旅行を迎えた。

修学旅行の前半は、京都・奈良の有名な寺院、金閣寺・清水寺・東大寺など、「これぞ修学旅行のお手本といわんばかりの名所を観光した。当時、他の高校は「修学旅行は北海道でスキー」が定番、それに比べるととも古風で地味な修学旅行だ。

四日目、分厚い雲の広がる寒い日だった。京都を後にし、「謎のプラン」に向かって、バスはひたすら北陸自動車道を北上している。「私たちはいつどこへ連れて行かれるのだろう?」、長時間の移動の後、バスは人里離れた山寺の門前で停車した。到着した場所は「曹洞宗大本山永平寺」、今から約八百年前、道元禅師によって開かれた厳しい禅宗のお寺である。眼前にある大きな山門は、あたかも私たち

医局



青春のかけら(前編)

小児科医 長倉 智和

を上から見下ろしているかのようで、畏怖の念さえ覚えた。バスを降りるとすぐに宿坊に案内された。和尚から約一時間の法話を受け、永平寺の歴史、禅、修行の意味を説明された。「座禅を組む、経を唱えるだけが修行ではありません。それ以外にも、このお寺で過ごしている時間、すなはち生活そのものが修行であり、僧堂での立ち振る舞い、掃除、食事、入浴など、すべてが修行なのです。」和尚の言葉は深く、今でも記憶に残っている。

午後四時、修行の始まりである。まず、宿坊の床・窓の掃除をした。私は一休さん(アニメ)のように、雑巾がけで廊下を端から端まで何度も往復した。しかし、時間が経つとともに、友人同士でおしゃべりする者、廊下を走る者、掃除をサボる者が増えてきた。修学旅行気分の浮かれた若者は、見回りに来た雲水と呼ばれる修行僧から、「廊下を走ってはいけません!」「私語は慎みなさい!」「真面目に掃除に取り組みなさい!」と、何度も注意された。恥ずかしいことに、注意されている内容は小学生以下である。

午後六時、夕食。「唯一の楽しみは晩御飯か?」その期待さえも裏切られ、私たち高校生三百人は大広間で黙々と精進料理を食べた。食事中も当然、私語厳禁であり、会話もない。その空間には、箸と茶碗の擦れるかすかな音、そして二百人の高校生が一斉に沢庵を「バリツ、バリツ」と囁みくだく音だけが響いた。

看護課



ショッキングな一言

看護師 浦松 崇弘

「お父さんのお尻、おじいちゃんみたい!」

当時、まだ小学生だった長女と次女にお風呂で言われた言葉です。三十代後半、体調不良と加齢により、ずいぶんと筋力が落ちていましたので、そう見えても仕方なかつたのかもしれません、んー、子供ってなんとも残酷。高校までガチガチの体育会系運動部で、体力にはちょっとだけ自信をもっていた私には、この言葉が突き刺さりました。

その日から私、筋トレに日覚めました。仕事の合間にぬつて、週三回程ジムに通うこと四年、さすがに思春期の難しいお年頃を迎えた女子の前で裸をさらすことはできませんが、なんとかおじいちゃんのお尻ではなくなりました、めでたし、めでたし。

一般的にメディアなどでよく目にする筋トレの効果としては、ダイエット効果やアンチエイジング効果、また、女性に嬉しいむくみ改善、小顔効果、はたまた、テストステロンと呼ばれる男性ホルモンが増加したり、脳の働きを助けるセロトニンの分泌を促したりと、良いことづくめです。私の場合、慢性的な肩こり、腰痛から解放され、一日働いた後の疲れも、以前より軽くなっています。

ただ、肝心の健康診断の結果の方は、年々悪くなるばかりでして…。原因ははっきりしているのです。アレをやめればいいわけなんです。モクモクするわけです。この件につきましては、今後、また記事を書く機会があれば触れてみたいと思います。

また、自分自身も、学びたいことや、やり遂げたいこと、チャレンジしたいことがたくさんあります。一緒にトレーニングに励んでいた同僚は、見事なまでにリバウンドしてしまい残念ではありますが、無理をできる体づくりをテーマに四十代を駆け抜けたいと思います。

また、自分の健康診断の結果の方は、年々悪くなるばかりでして…。原因ははっきりしているのです。アレをやめればいいわけなんです。モクモクするわけです。この件につきましては、今後、また記事を書く機会があれば触れてみたいと思います。



ヴォイス



▼各部署の声です。今年度の目標は「共生」相手を丸ごと尊重する”です。

ルルドの丘、原稿依頼が来て、訓練課の一〇一六年度新人で厳選なるあみだくじを行ったところ、私が書かせて頂くことになりました。就職してそろそろ一年を迎えようとしていますが、訓練士として社会人として右も左もわからず皆様に迷惑をおかけしていることも日々あります。多くの人の助けや支えを受け、日々仕事を続けていけることに感謝をしています。

私のことを書かせて頂きますが、小さい頃はドラマ「ナースのお仕事」が好きで看護師の仕事に憧れています。しかし「人に注射を打つことは無理だ…」と諦め、中学時代では自分が捻挫したことがきっかけで理学療法士を目指したこともあります。しかし、「運動がバリバリできる人じゃないとできないな…」という先入観から、また諦めてしまいました。しかし医療系の仕事に就きたかった私はいろんな職種を探したのですが、そこで言語聴覚士の仕事を見つけました。食べる・話すことは私も好きであり、その部分に困っている方がいるのであれば手助けをしたい！と強く思いました。専門学生時代は、成人の病院に進むか小児の施設に進むか悩んだ時期もありましたが、ちょうど友達が持っていた恵の聖母の家の求人票を見つけ、こちらに就職しようと決めました。自分がまさか重症心身障害の方と関わる仕事をするとは思つても

訓練課



これまで振り返って

言語聴覚士 高橋 美里



みませんでしたが、実際関わつてみるととても純粋で、お話をしたり、皆さんの笑顔を見ると心が洗われます。少し休みが長くなると早く皆さんに会いたい話したいという気持ちになります。

そんなこんなで就職するまでの経緯を書きましたが、今自分ができることを考えながら、皆さんの生活を支えられるよう、自分のスキルを磨いて今後も関わっていきたいと思います。

生活福祉課



利用者の二一・二にあわせた外出

介護福祉士 芦刈 朝寿

ひかりの大地では、利用者さんの二一・二にあわせたいろいろな外出を検討し、今回『短時間（長時間）お出かけサポート』、という当施設が提供しているサービスを利用して、買物や写真撮影などに出かけたので紹介します。

二〇一六年十月には、利用者二名と野津町の普現寺に行き、紅葉と山門の写真撮影そしてセブンイレブンでの買物をするという計画を立てました。その日は雨天で、利用者は車外で撮影することはできなかったため、支援者が代わりに撮影した画像や車窓からの景色を楽しみました。紅葉にはまだ少し早い時期だったのも残念でしたが、初めてのコンビニ（セブンイレブン）で店内の様子をみながら欲しいものを買って帰りました。あいにくの雨でしたが利用者は、買物などが楽しめて満足された様子でした。



き、嬉しくてたまらない様子でした。
二〇一六年度の『お出かけサポート』はこれで終わりましたが、今後も利用者の二一・二に合わせた有意義な外出を計画していこうと考えています。

二回目は、同年十二月に利用者二名とファミリーマートへ買物に行き、その後ドライブを楽しむという計画で行いました。二人ともやはりコンビニでの買物が初めてという事もあり、店内の商品を見渡していました。買うものを決めていたので店の中をあちこちしながらやつと見つけると、笑顔を見せて喜んでおり、店員さんは「笑顔が素敵ですね」と声をかけられました。買物後は、普現寺のきれいな紅葉を見に行き散策しながらの撮影会。施設以外のきれいな風景を撮影で

12月10日(土) クリスマスの集い

みんなで集い、クリスマスをお祝いすること、平和を広げていくことを目的に恵の聖母の家 地域交流ホームでクリスマスの集いを開きました。今回は、alco.with 溝口伸一さまのアカペラとギターによるゴスペルからクリスマスソング、J-pop の歌と演奏を楽しみました。Have yourself a Merry Little Christmas やベストフレンド(キロロ)、ビューティフル (SUPERFLY) はとても綺麗でした。臼杵ウインドアンサンブルさまには洋楽やアニメ、そして会場のみなさんも楽器を手にして一緒に演奏して楽しみました。一曲ずつ曲紹介があり、曲の誕生した背景や歌に込められた思いを知ることができ、中でも中島みゆきさんの曲♪糸はとても心に響く演奏でした。2組の入れ替わりの合間にピコ太郎とシス太郎が登場しアップ一筆を披露して会場を笑いに包んでいました。最後は聖劇です。トーンチャイムの音色から始まり、恵の聖母の家と深く関係しているコルベ神父さまの生涯をスライドをみながら、みんなでクリスマスについて考えました。今回も各学校からボランティアの皆さまがたくさん来られて進行を手伝ってくれました。ありがとうございました。



12月15日(木) 餅つき

臼と杵を用いて、園庭で昔ながらの餅つきを行いました。ホールでは餅つきの由来について保育士から説明を行い、新しい年を元気に過ごせるように願いました。お餅はぎゅうひ、よもぎ餅、しえ餅、あんこ餅等にして、皆で美味しいいただきました。

12月24日(土) サンタプレゼント

午前、各病棟にサンタさんが現れて、プレゼントが配られました。ある棟には映画のDVDや入所者の好きな音楽CD、そして水で固まるビーズ、光の装置やフットバス、ipodなどが贈られたようです。午後は茶話会で、職員のクラリネットとトーンチャイムの演奏で楽しく過ごしました。贈り物は早速活用し、作品作りもしています。サンタさん、ありがとうございました。

12月25日(日) クリスマスマミ

交流ホームに集まり、地域の方、潔き聖母の家の皆さん、そして恵の聖母の家の入所者、他関係者の皆さんと一緒にクリスマスのお祈りを捧げました。神父さまからは、「イエスさまは自分では何もできない赤ん坊として生まれた。それは支援を必要としている人たちと同じだけれど、イエスさまも私たちも世の中を照らす光を持っている」ことを話して下さいました。



11月13日(日) ボランティア公演 樺の実少年少女合唱団

1979年に青少年育成を目的に津久見市で結成され、コンサートやイベント、幼稚園、小学校、病院、高齢者施設の訪問コンサートも行っている樺の実少年少女合唱団が約1時間にわたって素敵な歌声を聴かせてくれました。歌は、村祭りやもみじといった童謡や、サザエさん、ドラえもん等のアニメソング、他に歌謡曲からは世界に一つだけの花を歌ってくれました。団員は3歳から大学生までと年齢も幅広く、小さな団員さんたちも歌や振り付けで聴く者を楽しませてくれました。他にも津久見市の伝統芸能である扇子踊りは扇子の舞がとても優雅で、会場を魅了していました。皆さん、素敵な時間をありがとうございました。

11月17日～18日 日本重症心身障がい福祉協会西日本施設協議会

ルルドの丘36号の巻頭言でもご紹介しましたが、大分市のオアシスターを会場に開催され、恵の聖母の家が準備、運営に当りました。約62施設、参加者215名をお迎えし、施設の運営や福祉のあり方について意見交換を行いました。また「重症心身障害看護の新たな取り組み」をテーマにシンポジウムを行い、特別講演では高崎山管理公社楽猿案内担当班の藤田忠盛さまに「高崎山のサル社会」をテーマにお話いただきました。高崎山の歴史や猿社会の中で障害を持ちながらも子に愛情を注ぐ猿のお話にとても感動しました。協議会終了後は施設見学が行われ、恵の聖母の家も約30名の方に見学していただきました。皆さん、ありがとうございました。

12月10日“人権デー” 第68回人権週間（12/4～12/10）

日本では毎年、12月10日を最終日とする一週間を“人権週間”と定めています。恵の聖母の家では権利擁護・虐待防止部会を中心にサンクスカードの作成・掲示や全体研修を通して入所者および利用者、関係者の権利擁護に努めています。サンクスカードはツリーに貼って関係部署に掲示しました。このカードの目的は「一人ひとりが明るく、元気で、前向きに、楽しく働ける」風土づくりにあります。感謝の気持ちが心と心をつなぐ・讚える気持ちがやる気を引き出す・気づきの力、感性を磨く、職員のマインドを豊かにする・心と心をつなぎ、喜び、嬉しさ、楽しさが感じられる・風土をつくる・組織の活力を高める

ことに役立つ、と言われています。今後も権利擁護・虐待防止部会を中心に入所者および利用者、関係者の権利擁護に努めます。



11月6日(日) 秋のふれあい会

隣接している障がい者支援施設 潔き聖母の家で文化祭が開かれ、入所者4名が参加してきました。今回はカラオケ大会が催され、入所者も一人またはペアで歌って、自慢の歌を披露しました。曲に合わせた衣装で日頃の練習の成果を発揮した皆さん、声がよく出ていて、フルコースで最後まで歌えて、来年もまた歌いたいと意欲をみせていました。その後は買い物し、帰園後に購入したもので楽しみました。

11月12日(土) ときめき作品展

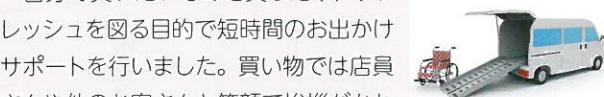
“障がいのある人による芸術展 ときめき作品展”（主催 大分県障害者社会参加推進協議会）が11月10日から11月14日の5日間、大分市アートプラザで開かれ、入所者2名が鑑賞してきました。恵の聖母の家からも入所、訪問看護ご利用の方が絵画や工芸、書、合作の部門で出展していて、作品がどのように飾られているか、ギャラリーの反応などをみてきました。展示会場では関心のある作品を真剣な表情で観て、支援者を呼んで気に入った作品があることを教えてくれたり、自分の作品が展示されていることを喜んだり。次回の作品意欲にもつながる作品展でした。

11月27日(日) 第12回歳末たすけあいチャリティーショー

臼杵市野津町の野津中央公民館にて歳末たすけあいチャリティーショーが行われ、恵の聖母の家の車椅子ダンスグループ“スマイルリーズ”6名が昼の部に出演し、♪コロブチカと♪365日の紙飛行機の2曲を披露しました。大きな会場なので緊張されるかなと心配ましたが、光を浴びて明るいステージと会場から声援をたくさん受け、メンバーはとても嬉しそうで笑顔もたくさん見られました。2曲目の♪365日の紙飛行機の終わりには会場に向けて紙飛行機を飛ばしました。メンバーは会場からの歓声を受けながら紙飛行機の行方を見守り、最後まで楽しくダンスをすることができました。公民館のロビーには地域の方の作品展示が行われていて、出演前にメンバーも作品を見て指をさして関心を寄せていきました。会場の皆さん、また運営の皆さん、ありがとうございました。

12月1日(木) 短時間お出かけサポート

自分で買いたいものを買ったり、リフレッシュを図る目的で短時間のお出かけサポートを行いました。買い物では店員さんや他のお客さんと笑顔で挨拶がかわせて、入所者2名も必要なものを楽しく買うことができました。買い物の後は趣味としている写真撮影を普現寺で行いました。こちらも楽しんで行えたようで、気持ち良い時間が過ごせました。



10月18日(火) 施設内活動

施設近郊での活動が困難な方を主な対象に施設内で行っています。ただ、施設内といつても、外の風や鳥の声、木々の音等の雰囲気を感じたりできるよう活動場所を室内からテラスに移して、職員も普段着に着替えて、リラックスした環境を心掛けて行いました。今回は予定していた入所者5名と2家族で活動ができました。青空の下、今回は「おゆまる」を用いてアクセサリー（ストラップ）を作りました。80度のお湯につけて軟らかくなったおゆまるくんを型に入れて、星やイルカのアクセサリーの完成です。参加者はおゆまるくんの感触に触れたり、装着する飾りを選んだりしながら活動を楽しみました。日頃の生活とは違った環境でリフレッシュできたのではないかと思います。できあがったアクセサリーはホールに展示してみんなに見てもらいました。

10月20日(木) 施設外療育 パークプレイス大分

予定していた入所者5名と4家族で活動ができました。到着後に緊張していた人も戻には笑顔で食事を楽しめ、ご家族の声かけに嬉しそうに何度も返事をする人もいました。買い物ではピンク色の服を見せられると大きく口を開けて笑い声を出した人もいました。声を出して商品を選んだ人もいて、皆さん、商品にとても関心がある様子でした。買い物とご家族とのひと時と、有意義な時間になりました。

10月27日(木) マルショク臼杵店

入所者2名と1家族で活動ができました。初めて施設外療育に参加した人もご家族の姿が目に入る安心したようで、服を買ったり、親子で散策を楽しめました。もう一人もお出かけ前は車内で緊張した様子でしたが、シャンプーや食品の匂いを楽しんでいました。リフレッシュした良い一日になったようでした。

10月28日(金) 短時間お出かけサポート

入所者2名が作品展への作品作りとリフレッシュを兼ねて、秋を感じられる場所、紅葉で有名な普現寺と吉四六ランドにお出かけしました。雨天だったため、外で自由に写真撮影を行うことは十分にできませんでしたが、それでも車窓から見る風景を楽しめたようでした。その後、近くのお店に寄って買い物し、リフレッシュもできたようでした。※お出かけサポートについては、5頁の生活福祉課の欄でも紹介しています。



ヴォイス



▼各部署の声です。今年度の目標は「共生」相手を丸ごと尊重する”です。

高校卒業後、寒い北陸の福井に就職して早十二年になる三男より、「一月に皆で遊びに来ないか」と説いていました。そこで息子に「夫婦と共に行く計画を立てていたのですが、残念ながら息子達は予定が立たず、主人と二人で行くことになりました。一月中旬の寒冷前線の影響でとても寒く吹雪いていると息子から連絡があり、マフラー等防寒具を準備し、寒さ対策も万全にして出向いたのですが、天気は良く、防寒具の出番はありませんでした。

前回行った時は福井の名所を観光したので、今回は一度行ってみたいと思っていました。日本三大名園（後楽園・偕楽園・兼六園）の一つ、金沢の兼六園に案内してもらいました。

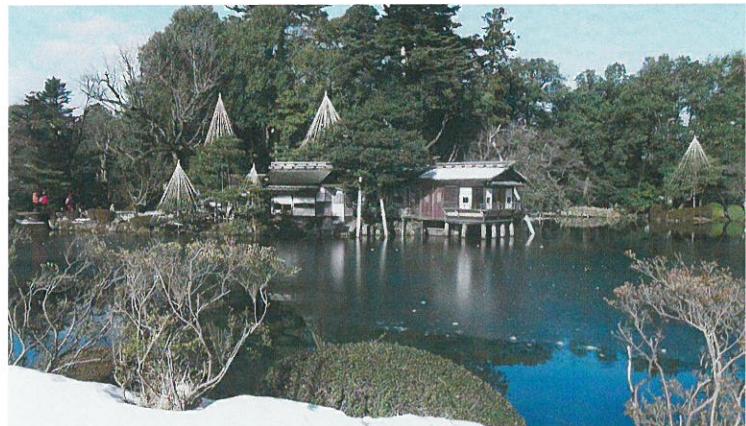
兼六園は金沢城の外郭として属した庭で、詩人李格非の書いた「洛陽名園記」の文中から採つて宏大。幽邃・人力・蒼古・水泉・眺望の六勝を兼備するという意味で、「兼六園」と命名されたそうです。広大な敷地には、瓢池・霞ヶ池等があり、全庭をまわるのにどれ程の時間がかかるのかと思いながら散策しました。

冬の兼六園の風物詩といえば雪吊りです。雪吊りは園内に植えてある唐崎松やいろんな樹木を雪害から守るために、真竹・真柱・縄で頑丈に結び込んでいます。職人さん達の細かい、緻密な技に見とれてしまいました。残念なことに今回は樹



日本二大名園「兼六園」へ

佐藤 ふさ子



木に雪が積もつていなかつたので、できればもう一度雪が積もつている時に来て見たいと思いました。しかし園内には一、三日前の雪が残つて凍結しているため、足下に注意しながら散策しました。それから兼六園を後にし、次なる観光に向かいました。

短い時間でしたが、息子といろんな所へ行けて、北陸の海の幸も堪能でき、とても有意義なひと時となりました。

自分は出身が福岡で、野津に来て、かれこれ十六年になります。息子は小学校三年生の頃、少年野球クラブに入りました。自分はコーチを頼られましたが、メンバーは四人で息子も入つて五人。野球は九人で行うスポーツですから、当然人数が足りません。地区の人に声をかけて、他の子どもたちに臨時で入つてもらつてもらいました。

試合ができる事は嬉しいことでした。試合ができる事は嬉しいことでした。が、急ごしらえのチームが勝つことは難しく、0対20ということも珍しくありませんでした。一勝というのがなんと遠いことか。結局、初勝利まで二年かかりました。この勝利の陰には一人のコーチの存在があります。彼は野球が一番と言うほど野球好きで、このチームが初勝利を挙げられたのも彼の指導があつたからだと思っています。ただ、残念ながら、彼は初勝利をみることもなく急死してしまいました。試合や練習以外にもプロ野球のキャンプや公式戦に連れて行ってくれた彼のことは子どもたちみんなの心の中に生きていると思います。自分も毎年、県予選の応援に行きました。



一枚の写真

藤木 光浩



この写真を見ていると社会に臨んでいく子どもたちの姿が浮かんできます。『野津小野球部・頑張るばい!』、社会でも頑張るばい!と心でエールをかけずにはいられません。

今年の三月に自分が教えた最後の子が卒業と聞くと感慨深いものがあります。津久見高校に進んで、軟式野球大会で全国一位になった子どももいました。他にも学校を卒業後、看護師になつたり刑務官になつたり、そして結婚等、子どもたちの活躍は頗らしい限りです。

玄関では靴をそろえて上がるようになしたこともあつたあの小さかつた子どもたちが社会人になっていく。子どもには「挨拶が大事」と言つていましたが、十三年経つた今でも、彼らは自分の顔をみると挨拶をしてくれます。とても嬉しいことです。

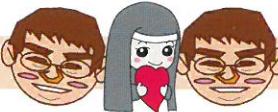
高校卒業後、寒い北陸の福井に就職して早十二年になる三男より、「一月に皆で遊びに来ないか」と説いていました。そこで息子に「夫婦と共に行く計画を立てていたのですが、残念ながら息子達は予定が立たず、主人と二人で行くことになりました。一月中旬の寒冷前線の影響でとても寒く吹雪いていると息子から連絡があり、マフラー等防寒具を準備し、寒さ対策も万全にして出向いたのですが、天気は良く、防寒具の出番はありませんでした。

前回行った時は福井の名所を観光したので、今回は一度行ってみたいと思っていました。日本三大名園（後楽園・偕楽園・兼六園）の一つ、金沢の兼六園に案内してもらいました。

兼六園は金沢城の外郭として属した庭で、詩人李格非の書いた「洛陽名園記」の文中から採つて宏大。幽邃・人力・蒼古・水泉・眺望の六勝を兼備するという意味で、「兼六園」と命名されたそうです。広大な敷地には、瓢池・霞ヶ池等があり、全庭をまわるのにどれ程の時間がかかるのかと思いながら散策しました。

冬の兼六園の風物詩といえば雪吊りです。雪吊りは園内に植えてある唐崎松やいろんな樹木を雪害から守るために、真竹・真柱・縄で頑丈に結び込んでいます。職人さん達の細かい、緻密な技に見とれてしまいました。残念なことに今回は樹

▼身近な方々からのメッセージです。今年度の目標は「共生」相手を丸ごと尊重する”です。



ぽつかぽか

保護者の皆様から



次の活動へのワンクッショーン

娘は今年、年長さんで6歳になります。マイペースで誰にでも頼ることができる子です。小さい頃は歩行ができるかわからず、気になって心配していたところ、市の保健師さんが開いている親の集まりを知り、自分と同じように子どもの成長が気になっているお母さんたちに会って、「恵に通っているけれどあそこは良いよ」と訓練を紹介してくれました。1歳4か月頃から通うようになりました。訓練自体、娘にとっても良いところですが、その時は心のどこかに負担があったのだと思います。私自身も訓練の先生にいろいろと相談できて、頼れる先ができたように思いました。娘は訓練に通って歩けるようになり、行動範囲が広がると、私は知育の面が気になり始めました。それまでは歩行だけに目が行っていたからかもしれません。

外来保育は1年半ほど前から利用しています。きっかけは外来保育の「気になることがあったら…」のパンフレットをみたことです。外来保育は特別なことをするのではなく、普段の遊びをよく取り入れてくれています。音の出る本やカラフルな本、感触が違う本などを見せてくれて、とても参考になります。用いるものは同じも

のがなく、みていて私も今度使ってみたいという気持ちになります。他にも、興味があると思われるもの（普段触ることのない楽器など）を探してきてくれます。娘も楽しそうで、したいこと、好きな物があると「ちょうどい」という感じで外来保育士のそばで待っています。家では指人形や紙芝居に関心がなかったのですが、外来保育士の側に行って待っている様子は家ではみられない光景で大きな発見でした。今では家でも指人形や手遊び、歌を楽しんでくれて、療育の効果かなと思うことがあります。私自身は娘にこれをやると決めたらさせることに思いがいってしまうのですが、外来保育では無理をさせず、「片づけるね」と声をかけて、すぐに別なものに切り替えるなど、興味・関心を優先してくれるので、娘もストレスを感じることなく、楽しめているようです。この関わり方が私にはとても参考になり、先生のようにできたらと思っています。また療育中、外来保育士に相談することができます。その時はいつもプラスの言葉で返してくれます。療育の参加と相談で自分の気持ちが発散でき、心を軽くして家に帰ることができますので、とてもありがとうございます。

子どものデイサービス利用や訓練など、一連の流れの中で1日を送っているお子さんもいると思います。娘も他の事業所で午前中頑張り、午後も訓練を頑張らないといけない娘にとっては、他事業所と訓練の間に外来保育があることが次の日の気分の切換えになって心の癒しの場になっていると思います。外来保育は子どもにとっては次の活動へのワンクッショーンとしてリフレッシュできる場であり、親にとっては遊びを学べて、子どもの関心のあることや成長など新たな発見ができるところもあると思っています。

支援学校訪問教室



利用者の方の臼杵支援学校での活動の様子

臼杵支援学校 横山 由美

臼杵支援学校勤務も丸5年となりました。その間担当生徒が児童発達支援センターめぐみの放課後等デイサービスを利用していたり、訪問学級始業式など儀式的行事で赴いたりと恵の聖母の家に関わる機会が多く、大変お世話になっています。

本校では、恵の聖母の家で訪問教育を受けている児童が3名、短期入所や放課後等デイサービスを利用している児童生徒が7名、また体験実習も受け入れて頂いており、深く連携させて頂いております。

今回は児童発達支援センターめぐみを利用されている児童生徒が、学校の教育活動で、色々な人と関わりながら豊かな経験を重ねることを通して学んでいる様子を一部紹介します。



「遊びの指導」
友だちと一緒に、福笑いをしました。友だちにしっかり目を向けていますね。



「生活単元学習」
小学部全員で近くの神社へ歩いて初詣に行きました。鈴を鳴らすなど日頃できない体験をしました。



「生活単元学習」
日本の伝統に触れるという単元で書き初めをしました。墨の香りの中で、集中してお手本をよく見て筆を運んでいますね。



「交流および共同学習」
津久見高校海洋科学校、臼杵高校、津久見高校の生徒が年3回本校を来訪します。チームで、作業学習やボッチャなど一緒に学習し、交流を行いました。補助具を使って上手にボールを投入していますね。



「音楽」
琴の演奏体験をしました。指に爪をはめ教師と一緒に奏でています。目をきょろきょろさせて、音色を聴いていましたよ。

青春のかけら(後編)

午後九時..消灯、就寝。もちろん修学旅行名物の「枕投げ」もご法度である。翌朝の座禅修行に備えて早く眠りに就かなければならぬ。

午前三時..山寺の朝はとても寒い。「起床!」けたたましく鐘を鳴らしながら、雲水が寺中を駆け回っている。その音は私たちの枕元へだんだんと近づいてきた。突然、入口の襖が全開し、「おはようござります。これより朝のお勤めです。本堂に集まつてください。」雲水の大きな声で、私たちは半ば強制的に起され、寝ぼけまなこをこすりながら本堂へ移動した。

本堂では、きらびやかな袈裟をまとった五十人以上の僧侶が読経をしており、その光景は圧巻だった。「眠氣」は一瞬にして「緊張」へと変わった。私たちは後方で禅を組んだ。三十分くらい過ぎた頃、足がジンジンとしびれてきた。思わず姿勢が崩れそうになるが、一生懸命に背筋を伸ばし必死に耐えていた。頭の中を「無」にしようと思えば思つほど困ったことに、「何時間経ったんかなあ?」「あと何時間続くんやろ?」「○○高校は、スキーをエンジョイしてるんやうなあ?」など、雑念が次から次へと沸いてくる。「あつ、ダメだ。今は座禅修行中、頭の中を無にして自分と向き合わなければ。」自分の弱さと理性が必死に闘っていた。

ふと視線を前にやると、同級生も皆必死に頑張っている様子がうかがえた。野球部のT君は、頭は丸刈り、背筋は真っすぐで、禅を組む姿勢も様になつてている。さすがだ。その隣は「授業中の居眠り常習犯」S君。一見、ちゃんと禅を組んでいるようだが、どうも様子がおかしい。よく見ると、S君の頭が前後に小

さく揺れている。そして次の瞬間、彼の体は「カクン」と前方へ大きく崩れ落ち、「はつ」私たちは思わず息を呑んだ。一人の和尚が静かにS君のもとへ歩み寄り、一メートル以上はあるうかという長い警策を、S君の背中へ振りかざした。「ビシッ――ーン!」本堂に響き渡る和尚の一撃。その様子を目の当たりにした私たちは、あまりの迫力に、心臓が口から飛び出さんばかりである。しかし、数十分後再びS君に異変が…今度は体が前後左右に大きく揺れている。「これはさすがにマズイ。危ない!起きろS君!」心中で何度もかそう叫んだが、その声が彼に届くことはなかつた。万事休す。和尚の警策が再びうなりをあげる。「かあああああーつ!!!!」それでも、座禅の途中で二度も居眠りをするとは…さすがS君だ。私たちは笑いを禁じえなかつた。

午前六時..朝のお勤め終了。足のしびれ、極度の緊張感、どちらもほぼ限界まで達していた。私たちは朝食を終え、永平寺を後にした。



◆各ご連絡・ご相談先

発達外来(初診受付)…0974-32-7778	児童発達支援センターめぐみ…0974-32-7784 保育所等訪問支援・児童発達支援・放課後等デイ・生活介護
相談支援事業所こころ…0974-32-7788	訪問看護あんな・地域連携室…0974-32-7667
外来保育きっず……0974-32-7778	恵の聖母の家(代表) ……0974-32-7770

▼恵の聖母の家ではボランティア公演の様子等、画像だけでなく動画もアップしています。ご覧いただけます。

▶2016年11月
櫻の実少年少女合唱団の様子はこちらです。



◀2016年12月
クリスマスの集いの様子はこちらです。



▶恵の聖母の家はここです。



実習生の感想

▼退職
二〇一六年十一月三十日付
調理師 平山三枝子

一月に一週間という短い期間でしたが、学校では学べない多くのことを学ばせて頂きました。OTの見学では、外来の子どもさん、そして病棟では入所の見学をさせて頂きました。発達分野の実習が初めての私は、見学をさせて頂いても疑問が多くなる一方でした。しかし、OTの先生方に質問すると、私が理解できるまで丁寧に教えて下さり、お陰でより一層の理解を深めることができました。またOT分野に限らず、PT、通所事業等、他部門の見学もさせて頂きました。それぞれの部門の特徴を知ることができ、体験までさせて頂いて、とても貴重な経験となりました。

この見学で学んだこと、体験したことを活かし、今後の学習に臨みたいと思います。短い期間でしたが、親身になって「指導頂き、ありがとうございました。」

(九州保健福祉大学 K・S)

人事

行事予定

※青色…施設外療育 ◎…ケースカンファレンス ◯…個別面談
 ⑩…権利擁護・虐待防止部会 ⑨…全体朝礼 ⑧…労働安全衛生委員会
 ①…リスクマネジメント部会 ⑦…入浴日

3月			4月			5月			6月		
1	水	⑩	1	土		1	月		1	木	
2	木		2	日		2	火	⑨◎	2	金	⑦
3	金	雛祭り	⑩	3	月	⑩	3	水	3	土	
4	土		4	火	⑩	4	木		4	日	
5	日		5	水	⑩	5	金	⑩	5	月	⑦
6	月	⑩	6	木	施設外療育	6	土		6	火	⑩
7	火	⑩◎	7	金	⑩	7	日		7	水	⑩
8	水	⑩	8	土		8	月	⑩	8	木	
9	木		9	日		9	火	◎	9	金	⑦
10	金	⑩	10	月	⑩	10	水	⑩	10	土	
11	土		11	火	◎	11	木	施設外療育	11	日	
12	日		12	水	⑩	12	金	⑩	12	月	⑦
13	月	⑩	13	木		13	土		13	火	◎
14	火	◎	14	金	⑩	14	日	ルルド祭	14	水	⑩
15	水	⑩	15	土		15	月	⑩	15	木	⑩
16	木	⑩	16	日	復活祭ごミサ	16	火	◎	16	金	⑦
17	金	⑩	17	月	⑩	17	水	⑩	17	土	ふれあい運動会
18	土		18	火	◎	18	木	施設外療育	18	日	
19	日		19	水	⑩	19	金	⑩	19	月	⑦
20	月		20	木	⑩	20	土		20	火	◎
21	火	◎	21	金	⑩	21	日		21	水	⑦
22	水		22	土		22	月	⑩	22	木	施設外療育
23	木		23	日		23	火	◎	23	金	⑦
24	金	⑩	24	月	⑩	24	水	⑩	24	土	
25	土		25	火	◎	25	木	施設外療育	25	日	
26	日		26	水	⑩	26	金	⑩	26	月	⑦
27	月	⑩	27	木	施設外療育	27	土		27	火	◎
28	火	◎	28	金	⑩	28	日		28	水	⑦
29	水	⑩	29	土		29	月	⑩	29	木	施設外療育
30	木	施設外療育	30	日		30	火	◎	30	金	⑦
31	金	⑩				31	水	⑩			

※関係者の同意のもと、写真を掲載しております。※予定変更の場合があります。

編集後記

新しい年になって3か月。2月、3月は早く過ぎると言われます。4月からは新しい年度が始まりますから、この時期は準備を充分にしておきたいですね。さて、酉年は景気の良い年ともいわれています。来る2017年度も皆さんにとりまして良い年となりますように☆(S・M)